

(研究ノート)

Military Social Worker の養成課程と
Military Culture に関する一考察

田 中 顕 悟

Military Social Workerの養成課程と Military Cultureに関する一考察

田中 顕 悟

和文抄録：現在、我が国ではMilitary Social Workの実践は十分には認められないが、米国においてはかねてよりその実践が展開されており、近年では大学院教育においてMilitary Social Workerの養成も進んでいる。そこで本稿では、Military Social Workの概要とMilitary Social Workerの養成課程、ならびにそれらを構成する事項の一つとしてのMilitary Cultureについて、各種の先行研究ならびにMilitary Social Workerの養成を進めている教育機関におけるカリキュラム・資料を参考に考察を進めた。

Key Words: Military Social Work ・ Military Culture ・ Military Social Worker

はじめに

ソーシャルワーク実践の対象領域は、その歴史的要因において社会変動・時代背景等の影響により、従来の対象領域にとどまることなく拡大ならびに深化しつつある。

また、現代社会では生活の多様化・複雑化の影響もあり、様々な生活場面において、ソーシャルワーク実践の専門的視点・技術に基づく支援の必要性が高まっている。

例えば、我が国の戦後のソーシャルワークの歴史に目を向けても、かつてはソーシャルワーク専門職の資格の一つである社会福祉士の活動が充分ではなかった領域(例 小・中学校等の教育現場・刑務所・検察庁等)においても、近年、その活動がより活発に展開されており、そこでは我が国の実情に即したソーシャルワーク実践が構築されつつある。

また、今後の我が国においてさらに進行が考えられる少子高齢社会、家族形態およびその機能の変化、ならびに労働環境・経済状況の変化や国際情勢等が人々の生活に与える影響を考慮すると、ソーシャルワーク実践の対象領域について、さらなる拡大が予測される。

そこで本研究では、現時点で我が国においては十分にソーシャルワーク実践が展開されていない対象領域について、これまで多様な社会変動に直面した歴史を持つアメリカ合衆国(以下、米国)でのソーシャルワーク実践の対象領域を参考に考察を進めることとした。

なお、参考にする指標としては、NASW(全米ソーシャルワーカー協会)のWebページにて示されていた「Social Work Profession」^{註1)}を参考とし、中でも、我が国において新たなソーシャルワーク実践の対象として検証が必要と考えられるいくつかの領域の内、特に「Military Social Work」に着目した。

Military Social Work を研究対象とする本研究の主眼は、米国におけるMilitary Social Workの実践内容等を基盤に、我が国におけるその展開の可能性について考察を進めることであるが、我が国においてはMilitary Social Workに関する先行研究が十分にみられない点を考慮し、先ず本稿で

は、米国におけるMilitary Social Workに関わる専門職としての「Military Social Worker」の養成課程を有する教育機関の状況の把握と、養成課程に関する資料について集約を行うとともに、それらの中から導き出された、Military Social Workの実践過程を構成する事項の一つである「Military Culture」の重要性に着目しその整理を進め、今後の研究の布石としたい。

1. Military Social Workの概要

NASW発行の『What Social Workers Do』（和訳『ソーシャルワーカーの役割と機能—アメリカのソーシャルワーカーの現状—』）では、

「軍隊社会は、あたかも全ソーシャルワーク実践分野の縮図であって、軍隊ソーシャルワーカーは軍属家族政策、児童福祉、保健ケア、虐待内容、精神衛生、人実の本国送還、または人道的救援など様々な領域に介入する。軍隊ソーシャルワーカーが対象とする大半の人々は、軍隊任務についている人とその家族、退役軍人とその家族で適格者、あるいは一般人であって軍隊の特別援助に適応する人々である。」(Garbaer&Mcnelis;1995 中村優一監訳;1999)とされている。

また、米国の各軍のWebページ^(注2)ではMilitary Social Workについて、その活動を紹介しており、主として、戦闘行動に伴うストレスへの対応・メンタルヘルス(Behavioral Health Care)・医療・薬物乱用・家族支援(家庭内および家族成員が抱える課題への対応)等について、ソーシャルワーカーが対応することが示されており、その対象者としてはService Member(以下、SMとする。軍隊に属する兵士本人を表す)だけでなくその家族も含むとされる。

また、Military Social Workは上記の通り、その時点でMilitaryに所属するSMとその家族を対象とするが、それだけでなく現役中の活動により、様々な障害・疾病に直面することとなった退役者とその家族に対する医療機関ならびに関係機関における支援活動およびホームレスとなった退役者への支援活動等も含まれており、いわゆる「基地(Base)」における支援活動にとどまらず、SMと退役者そしてその家族が生活を営む各コミュニティにおいても、その活動が展開していると言えよう。

これらのことからMilitary Social Workは、生活の営みの過程において「Military」という「組織」「環境」と密接な関係を有しているまたは有していた人々を対象とするSocial Workであり、それは広義の解釈としては「現在または過去に、その生活基盤についてMilitaryと密接な関連を有している、または有していた人々(以下、対象者とし、SMとその家族ならびに単身者そして退役者も含む)に対し、その職業ならびに生活環境上の特性から派生する様々な生活上の課題への対応について、ソーシャルワーク専門職が保有すべき専門的知識・技術を用い、関係機関および専門職(保健・医療・福祉・教育・司法・労働等)ならびに軍隊における各部署・関係者と密接な連携をとりながら、様々な年齢・ライフサイクルの段階にある対象者の「生老病死」にかかわる生活上の課題について、国内外の様々な状況により左右される、軍隊と社会との関係性ならびに軍隊に特有の文化に留意しながら、直接的・間接的な支援を展開する。」

と整理することができよう。

一方、我が国は厳密には、これまで述べてきたような米国等における「Military」としての組織を保有していないとされている。

しかしながら、「Military」の役割の一つに着目した場合、それがいわゆる国防に関わる集団とした場合、我が国では「自衛隊」がそれに該当すると言えよう。

自衛隊は、平成4年の「国際連合平和維持活動等に対する協力に関する法律」の発令以降、多岐にわたる国外での活動が展開されており、さらには2011年3月の東日本大震災における救助活動など、その活動に関わる隊員が直面するリスクは高いものといえ、それは隊員の身体的・心理的・社会的側面に対し様々な影響を与えると考えられる。

またそれは、そのようなリスクの高い任務に従事する隊員と同じ生活空間において暮らしを営む彼らの家族に対しても様々な影響を与える可能性も否定できない。

現在、陸海空各自衛隊においては、部内相談員・部内カウンセラーさらに臨床心理士等が配置され隊員のサポートにあたっているが、現時点ではソーシャルワーク専門職の配置はみられない。

また、家族についても「平素」・「派遣時」それぞれにおいて特徴のある支援活動が展開されており²³⁾、今後も更なる充実が期待されると言えよう。

そのため、上記に示したようなMilitary Social Workの活動については、防衛省・自衛隊関係者だけでなく、ソーシャルワーク専門職をはじめとする様々な対人援助専門職ならびにそれに関連する研究者についても、さらなる関心と理解が求められるところと言えよう。

そこで、次項においてはMilitary Social Workについて更なる理解を深めるためにも、Military Social Workerの養成課程の状況に着目し、その整理を行う。

2. 南カリフォルニア大学におけるMilitary Social Workerの養成課程

本項では、アメリカにおけるMilitary Social Workerの養成課程を有する複数の大学の中でも南カリフォルニア大学(University of Southern California 以下、USC)のSchool of Social Workにおける、Military Social Workerの養成課程の全体像に着目し、どのような体系により講義等が進められているかについて全体像の整理を行う。

USCは、米国におけるMilitary Social Worker養成に関わる教育指針(『Advanced Social Work Practice in Military Social Work』)について、CSWE(Council on Social Work Education 米国ソーシャルワーク教育協議会)とともにその作成に大きな役割を果たした教育機関である。

USCのSchool of Social Workは1920年に設立されており、大別するとMaster of Social Work(大学院修士課程 M.S.W)とDoctor of Philosophy(大学院博士課程 Ph.D.)により構成されている。

さらに、米国内でも初めてのプログラムである、国内外において受講が可能な全てがWebベースのソーシャルワークの修士課程プログラム(MSW@USC)が設置されており、様々な先駆的な試みが展開されている。

その一つとしての、Military Social Workerの養成については、M.S.Wの以下のようなコース体

系の一つとして位置づけられている。

M.S.Wは主専攻(Concentrations)としての、①Work & Life、②Mental Health、③Health、④COPA (Community Organization, Planning and Administration)、⑤Family and Childrenが、そして副専攻(Sub concentrations)として、(1)Military Social Work and Veteran's Services、(2)Older Adults、(3)Public Child Welfare、(4)School Settings、(5)Systems of Recovery from Mental Illness、が設置されている。(2012年7月時点)

カリキュラムの全体像^{註4)}は非常に柔軟性に富んでおり、受講生の多くが専従の学生ではないことも考慮され、在学期間も2～4年間と、学生の状況に応じた履修が可能となっている。

本稿において着目するコースは、Sub concentrationsにおける(1)Military Social Work & Veteran's Services (以下、MSWVSとする)であるが、これは、2009年からスタートしたコースであり、他のコースと比較すると歴史は新しいといえよう。

このMSWVSはSub concentrationsであるため、M.S.Wの学生は上記の①～⑤のConcentrationsのうちのいずれを専攻するかを決定し、その後、Sub concentrationsを選択することとなる。

MSWVSを選択した学生の多くは、Military Social Workというソーシャルワーク実践領域における性質上、Concentrationsとしては、②Mental Healthを専攻していることが多いとみられる。

このMSWVSでは、基本的にUSCとCSWEが協力して開発を行った『Advanced Social Work Practice in Military Social Work』^{註5)}のプログラム内容に準拠したカリキュラム編成が行われており、それは、「2011 Concentration Selection Information Package」^{註6)}において、以下の様に示されている。

1. The Military as a Workplace Culture
2. Managing Trauma and Post Traumatic Stress in Military Social Work and Veterans Services
3. Clinical Practice with the Military Family
4. Field Practicum (fall/spring)
5. Elective options

また、USC School of Social Workは先にあげた「2011 Concentration Selection Information Package」のIntroductionにおいて、MSWVSを取り巻く状況として、

- ・米国防総省(DoD)は2005年以降、繰り返された派兵が、軍人の中で発生している精神的・感情的な問題の発生に影響を与えていることを認めている。
- ・イラク・アフガニスタンにおける戦争と、それに対する兵士の派遣が、これまでの状況と異なっている点が認められる。
- ・イラク・アフガニスタンからの帰還兵の1/3に鬱病・PTSD等の発症が認められたこと。
- ・RAND研究所の調査結果から、全ての兵士の役1/3が生活上に様々な重要な問題(身体的・精神的・社会的側面において)に直面する可能性があることが指摘された。(特に薬物の乱用・自殺等について指摘している。)
- ・(それらの問題に対し)対応する専門職が不足しており、さらにその養成も十分でないこと。

・兵士とその家族に対する支援過程において、Evidence-Based Treatment Methodsに基づく実践展開ならびにトレーニングが十分でないこと。

などをあげ養成課程の設置の意義について整理している。

このような主旨のもとで、USC School of Social Workでは、Military Social Workerの養成が進められており、2012年5月の時点で既にMSWVSを終了した3名のMilitary Social Workerが米軍基地に配属されている。また、他の修了生は地域におけるVeteran及びMilitary Familyをサポートする機関で活動を進めており、さらに、それらの機関に所属しながらMSWVSを終了した学生も継続して支援活動に従事しているとのことである。

以上が、USC School of Social WorkにおけるMilitary Social Worker養成課程の概要であるが、上記の1～5の分類の内、いわゆる講義科目に該当する1・2・3に着目すると、専門職養成における本養成課程の特徴が明らかになる。

例えば、「1. The Military as a Workplace Culture」^{註7)}は、Military Social Workの対象者を取り巻く文化ならびに環境に関する知識の習得を図るものと言え、さらに「2. Managing Trauma and Post Traumatic Stress in Military Social Work and Veterans Services」と「3. Clinical Practice with the Military Family」に関しては、主としてMilitary Social Workの対象者の直面する課題ならびにそれに関連する支援技術・知識の習得が目的の一つと考えられる。

特に、「1. The Military as a Workplace Culture」において着目する「環境」に関しては、我が国の社会福祉士養成課程においても、ソーシャルワークの対象者の「環境」に対する視点ならびに知識の習得は必須とされているが、「文化」に関する理解ならびに知識の習得とそれらの支援過程における活用については検討の余地がみられる。

そこで次項においては、この「1. The Military as a Workplace Culture」の中でも特に「Culture」に着目し、Militaryという環境におけるCultureとしての「Military culture」について、Military Social Workの展開における位置づけについて、考察を進める。

3. Military Social WorkにおけるMilitary Culture

Military Cultureとは、

「(軍の)メンバーが、どのようにコミュニケーションを行い、相互作用し、彼ら自身の経験を理解しているかということを構築している伝統・価値観・信念・世界観の基本的枠組み」

(Coll, Weiss, & Yarvis; 2011 ; Weiss & Coll; 2011)

と言えるが、Military Social Workの展開という視点から考えると、SMの生活時間の多くを過ごしているまたは過ごしてきた「場」におけるCultureとしてのみとらえるだけではなく、その家族成員もその影響を多く受けていることを忘れてはならない。

例えば、先に挙げたNASW発行の『What Social Workers Do』(和訳『ソーシャルワーカーの役割と機能—アメリカのソーシャルワーカーの現状—』)では、

「フィットワース(Whitworth,S 1984)は、軍隊の家族は少なくとも次の8つの意味で特別である

と記している。(1) 機能性、(2)別居、(3)両親の定期的不在、(4)子どもたちの適応性、(5)海外生活、(6)ストレスとリスクの高い仕事、(7)家族のニードと軍隊機構の要求との間の葛藤、(8)権威的マネジメント環境」(Garbaer&Mcnelis ; 1995 中村優一監訳;1999)と表している。

この(1)~(8)は、Military Social WorkにおけるSMおよびその家族が直面する課題と密接な関係を有しているといえ、これらは単に軍隊に固有の業務・任務(ハイリスク・高い守秘性等)関連するだけでなく、その背景には軍隊に特有のCultureが影響していると考えられる。

そのため、Military Social Workに関わる専門職においては、Military Cultureの理解が必要不可欠であると考えられる。

そこで、このMilitary Cultureについて理解を深めるためにも、先に挙げたUSC School of Social Workの関連機関であるCenter for Innovation and Research on Veterans & Military Families (以下、CIR)^{注9)}において使用されているMilitary Cultureに関する講座の資料を紹介したい。

この資料は、2011年8月28・29日にUSC School of Social WorkおよびCIRの主催によりカリフォルニア州のリゾート地で開催されたプロジェクトにおいて使用されたものである。

それは、CIRが進めていた「Reintegration Partnership Project」の一環であり、イラクでの活動を終え米国に帰還したCalifornia National GuardのSMとその家族を対象としたもので、彼らが帰国後の生活に円滑に復帰することためのサポート・プロジェクトと言える。

その中では、SMと家族がともにリラックスして過ごす時間を提供するだけでなく、「REINTEGRATION SKILLS TRAINING」(専門家による感情のコントロールやストレスに対応するための方法に関する講習)や、「Military Culture」に関する講習が行われた。

いずれも、SMとそのパートナーがともに受講しており、特に「Military Culture」の講習においては、以下のような事項について説明がなされた。

その概要としては、

I 各組織の特徴ならびに慣習等

- ・ ARMY・AIR FORCE・MARINES・NAVY・NATIONAL GUARD等の各組織の体系や特徴等(各組織の「MOTTO」と「MISSION」^{注9)}および制服・階級等(イラスト・写真をもとに解説)
- ・ 特徴的な用語等(例=各組織により異なる呼び方等 Army = Soldier・Air Force = Airman
・ Navy = Sailor等)

II 利用可能な各種の社会資源

III 業務に関連し、直面する可能性のある様々な生活課題等について

(TBI・睡眠障害・自殺・悲観(配偶者の死別等)・薬物の乱用・PTSD等)

IV 退役軍人管理局(Department of Veteran Affairs)について

等があげられる。

また、その資料の中では、Military Culturesについて、

「軍隊に勤務するSMとその家族成員は、軍隊の文化・組織的な価値だけでなく、法律(軍法)・規準・伝統により支配され、そしてそれらは民間の同様のものとは異なります」

と表している。

つまり、上記のⅠ～Ⅳでも示されているとおり、軍隊にはその業務ならびにそれに関連する組織体系の特性等から、固有のCultureが根付いており、そのCultureの中で様々な活動を行い、その影響を受けながら日常生活を営むSMおよびその家族、そしてその影響を受けてきた退役者が直面する課題の解決のために専門職については、古川が、

「社会福祉に直接間接に関わりを持った人びとがどのような貧困(者)観、失業(者)観、あるいは障害(者)観を抱いてきたか、実はそれは関係者たちだけの問題ではない。そこには、それぞれの時代や社会において受け入れられてきた価値観、観念、信念、信教、習俗、習慣、それらから導き出されてくる思考や行動の様式など、一般に文化とよばれているものが色濃く反映されているのである」(古川;1994)

と指摘しているように、Military Social Workの実践展開においても同様にMilitary Cultureへの理解なしでは、適切な支援は困難であると考えられよう。

おわりに

以上、我が国では、ソーシャルワーク実践の対象領域として十分に認識されていないMilitary Social workについて、その概要とMilitary Social Workerの養成課程およびMilitary Cultureの視点から考察を進めてきたが、その根底には我が国のソーシャルワーク実践においても重要視されている「Evidence Based」の視点が強調されているとみられる。

我が国においては、「Military Social Work」の展開と専門職養成を喫緊の課題として取り上げるためには課題が山積しているが、「Military Socialwork」について分析を進めていくことにより、関連するソーシャルワーク実践領域における活動に対しても、様々な観点から相乗効果をもたらすのではないかと考えるものであり、今後も継続して、Military Social Workに関する見識を高めていく所存である。

〈謝辞〉

本研究ノートの執筆にあたっては、本学高山忠雄教授よりご指導をいただきましたことを深謝申し上げます。また、報告者の留学を受け入れていただいた、USC School of Social WorkのDr.Marilyn FlynnならびにCIRのDr.Anthony.M.Hassanおよびメンバーの方々のご支援に厚く御礼申し上げます。

(本稿は、2011-2012年度の長期国外留学研修の成果の一部である)

文献

- Coll,J.E., Weiss,E.L., & Yarvis,J.S.(2011).No one leaves unchanged:Insights for civilian mental health care professionals into the military experience and culture. *Social Work in Health Care*,50,487-500
- Margaret Gibelman(1995) 'What Social Workers Do' NASW 日本ソーシャルワーカー協会訳・中村優一監訳(1999)『ソーシャルワーカーの役割と機能ーアメリカのソーシャルワーカーの現状ー』相川書房 48
- 古川孝順(1994)『社会福祉学序説』有斐閣 91

注釈

- 注1) NASWのWebページの「Socialwork Profession」のURLおよび内容は次の通りである。
URL=<http://www.naswdc.org/pressroom/features/general/profession.Asp>
Mental Health Therapy・Disaster Relief・Military Social Work・Rural Social Work・Adoption & Foster Care・Child Welfare Services・Family Preservation Services・Homeless Family Assistance・Eating Disorders・Genetics・Hospital Social Work・Crisis Intervention・School Violence・Hospice and Palliative Care・Depression・Institutional Care・Chronic Pain・Outpatient Treatment・Development Disabilities・International Social Work・Advocacy, Consulting and Planning・Community Mental Health・Employee Assistance・Private Practice・Veterans Services・Child Abuse & Neglect・Domestic Violence・Political Development・Parent Education・Family Planning・HIV/AIDS・School Alternative Programs・Difficulties in School・Gerontology Services・Community-Based Services・In-Home Services・Senile Dementia and Alzheimer's・Addictions Prevention/Treatment・Criminal Justice・Housing Assistance・Public Welfare・Employment Services
なお、上記検索結果は、2012年12月29日時点のものであり、本稿執筆時点では更新され別内容となっている。
- 注2) 米国各軍のMilitary Social Workについては、次のWebページを参照。
U.S. ARMY(http://www.armymedicine.army.mil/r2d/social_work.html)
U.S. NAVY(<http://www.navy.com/careers/healthcare/clinical-care/social-work.html>)
U.S. AIR FORCE(<http://www.airforce.com/careers/detail/clinical-social-worker>)
(いずれも、2013年7月1日検索)
- 注3) 自衛隊の家族支援活動については、防衛省・自衛隊Webページにおいて、詳細が示されており、「平素の家族支援」(<http://www.mod.go.jp/gsd/family/normal/index.html>)、「派遣時の家族支援」(<http://www.mod.go.jp/gsd/family/pko/index.html>)にそれぞれ詳細が示されている。(いずれも、2013年6月8日検索)
- 注4) USC M.S.Wのカリキュラムの全体像については、次のWebページを参照。
<http://sowkweb.usc.edu/master-social-work/msw-degree/curriculum> (2013年1月21日検索)
- 注5) 『Advanced Social Work Practice in Military Social Work』については、以下のWebページを参照。
<http://www.cswe.org/File.aspx?id=42466> (2013年4月15日検索)
- 注6) 「2011 Concentration Selection Information Package」については、次のWebページを参照。
<http://sowkweb.usc.edu/download/academic-affairs/courses/concentration-selection-package-2011.pdf> 44
(2011年10月25日検索)
- 注7) 「The Military as a Workplace Culture」の詳細は次の通りである。
1. The Military as a Workplace Culture
• Military culture •Regulatory norms of personal and familial conduct •Patterns of socialization
• Gender roles• Overview of the military •Role of the military in the Department of Defense
• Branches of service• Military composition, core values and traditions •Norms of military Conduct •Patterns of socialization and language •Life for service members, spouses, and families in the military
•The intersection of the military culture and the social work culture
なお、「2.Managing Trauma and Post Traumatic Stress in Military Social Work and Veterans Services」、「3.Clinical Practice with the Military Family」、「4.Field Practicum」、「Elective options」については、次のWebページを参照。
<http://sowkweb.usc.edu/download/academic-affairs/courses/concentration-selection-package-2011.pdf> (2012年1月30日検索)
- 注8) Center for Innovation and Research on Veterans & Military Familiesは、USC School of Social Workでの教育活動にも携わるとともに、Military Social Workの啓蒙活動・現任訓練・各種調査・研究等を行っている機関である。
- 注9) 一例として、U.S.ARMYの「MOTTO」と「MISSION」をいかに列挙する。
The Motto : This We' ll Defend
The Mission : The Army' s mission is to fight and win our Nation' s wars by providing prompt, sustained land dominance across the full range of military operations and spectrum of conflict in support of combatant commanders.

A Consideration on Military Social Worker Training Course and Military Culture

KENGO TANAKA

While currently military social work is not fully practiced in Japan, it has been deployed in the United States for a considerable time now. Furthermore, in recent years there has been a growth in the training / education of military social workers in the country's graduate schools. In light of this background, this paper discusses the general outline of military social work, the training courses of military social workers, and the military culture as one of the items which make up the previous two items by referring to various earlier researches and the curriculum and information of the military social worker training courses implemented at educational institutions.

Key Words: Military Social Work • Military Culture • Military Social Worker